

第 3 回鹿島市下水道事業審議会 会議録（概要）

1. 日時：令和 6 年 4 月 23 日（月）9 時 30 分～ 11 時 15 分
2. 開催場所：鹿島市 新世紀センター2 階 会議室
3. 出席者
 - (1) 委員：
 - (2) 事務局：山浦建設環境部長 山口環境下水道課長 橋川参事 三原補佐
横尾係長 中島係長 関主査
4. 内容
 - (1) 開 会
 - (2) 会長挨拶
 - (3) 議事
 - 議題 1 公共下水道事業経営戦略と現状等について
 - 議題 2 下水道使用料金の設定・考え方について上記議題について、事務局から説明した。
 - (4) その他
 - (5) 閉会

【議題 1 公共下水道事業経営戦略と現状等について 質疑】

委員：他団体と比べて汚水処理原価が高いのはなぜでしょうか。

事務局：鹿島市の浄化センターは、日量 6,200 m³の汚水を処理することができますが、その施設利用率の低さが、汚水処理原価が高くなっている要因と分析しています。将来的には、鹿島市の汚水量は 1 日最大で 5,700 m³となる予測値があり、今はその過程であるということになります。

委員：施設利用率が低いということは設備過剰であるとも言える。収支、キャッシュフローなどどう考えているか。

事務局：基準外繰入金も入れた上で成り立っており、下水道使用料でキャッシュフロー

が形成されている状況ではないと認識している。

委員：大きな設備投資をするに当たり、過剰であるというような議論はなかったのか。

事務局：過剰投資となるような面もあり、平成31年4月に全体計画の見直しなどを進めました。浄化センターの現有規模6,200 m³は必要であると考えており、今、接続推進を図って、汚水の流入量を増やすべきと考えています。

委員：汚水処理原価を下げるためには、下水道工事を推進し、利用を促していくという考えもあると思う。

事務局：下水道事業は現在、30年ほど整備を行ってきており、当初の状況と現状を見ながら考えていきたいと思っています。

委員：下水道について、進捗状況が良ければ利益もあるが、区域を広げていくことで負担が大きくなるという面もあるのではないかと。水を綺麗にするということでは浄化槽も同じである。これから人口も減っていく中、負担は大きくなっていくと思う。浄化槽も考え、あまり拡張しないほうがいいとは思っている。

事務局：鹿島市の汚水処理は、下水道と合併浄化槽、両方で取り組んでいくこととしている。経費回収率などをどのように改善をしていくかということを経営戦略に掲げているので、戦略に沿って進めていきたい。

【議題2 下水道使用料金の設定・考え方について 質疑】

委員：一般の家庭、ごく普通の典型的な水準だと、使用水量の区分はどこら辺になるのか。

事務局：1月当たり20 m³のところ国が示す標準的な水準とされています。

委員：一人暮らしの高齢者などが下の区分（5 m³まで、10 m³まで）に該当するのか。

事務局：区分の中に一般家庭小口と書いている10 m³のところは1～2人世帯と認めていただいているかと思いますが。

委員：大口の事業所について、市の企業誘致政策との整合性はとらなくていいか。大口の事業所の使用料を上げると、企業誘致などに影響することも考えられるが、その辺は考慮しなくていいのか。

事務局：今回、審議会に、大口事業者様からも委員へ入っていただいております。その中で、これまでの料金改定の経緯や、使用料のうち大口事業所に係る部分などを考えながら、フラットな考えで、どうしていったほうが一番いいかを議論していただきたいと思っている。

委員：水道料金も上がったが、水道料金と下水道料金の割合というものがあると思う。その割合を大幅にはあんまりどんどん変えることはできないかなと思う。

事務局：水道料金が上がる前は、大まかに言って一般家庭で下水道料金は水道料金の7割程度と説明している。今後資料などもお示ししながら議論をしていきたい。

【その他 意見】

委員：鹿島市の場合、基準内繰入金も多く入っていると考えられる。あとは基準外の繰入金をどれぐらい圧縮するか、色々な考え方があると思うが、それを踏まえて議論をしていきたい。

委員：今後、試算、シミュレーションを行う上では、4～5年先の人口減少なども踏まえて行っていくほうがよいと思う。

委員：上水道は先に値上げが決まっており、そちらは一律15%となっている。下水道だけ一律じゃないというのも難しい可能性もあるといえはる。上下水道合わせた負担ということも考えていく必要があると思う。料金改定が、5㎡、10㎡、20㎡という区分それぞれでどうなってくるのかは見た方がいいと思う。場合によっては経済的な困難を抱えておられる方への打撃が大きくなる可能性もある。今色々な物価も高騰しており、生活費として見た場合全く無視することはできない。シミュレーション的にはその辺を意識された方がいいのかなと思う。

委員：全国的な流れで、空き家が増えており5㎡未満もしくは基本料金という考え方自体が時代的に即しているのかっていうところも含めて、料金体系自体を見直すという選択肢はあるのかどうか。今回、水道事業が、先に料金改定を決めて一律15%上げる

ということなので、これに準じていくという考え方もあるとは思いますが、この料金体系、基本料金を前提に置いた上での従量制という形になってきているとは思っているので、ここを崩すかどうかというところが一つ考えるべきところなのかなと思う。

委員：シミュレーションを見せていただいて、審議会で議論をしたい。それと、基準外繰入金についての資料も提示してほしい。